

# Book Review

## 医療者の心を贈る コミュニケーション 患者さんと一緒に歩きたい

日下隼人 著



Reviewer

別所正美 Masami Bessho  
(埼玉医科大学 学長)

A5判, 164頁  
定価 (1,800円+税)  
医歯薬出版刊



医療従事者にとって、コミュニケーション力が大切なことはいままでもない。したがって、その教育は医療職に就こうとする者には不可欠のものとされ、卒前教育においては歯学・医学ともにモデルコアカリキュラムの基本事項として取り上げられているし、卒後臨床研修の到達目標においても行動目標ならびに経験目標として記載されている。もっとも、コミュニケーション力の重要性は医療職に限ったことではなく、経済産業省が企業を対象に調査した一般企業における「採用時に重視する能力」の第1位にあげられ、「社会人基礎力」の重要な要素ともなっている。

このようにコミュニケーションの教育は重要であることは確かだが、医療職を対象としたインパクトのあるテキストとなるとなかなか見つからない。そのようななか、元武蔵野赤十字病院の副院長として研修医教育を長年担当してこられた日下隼人先生が『医療者の心を贈るコミュニケーション 患者さんと一緒に歩きたい』を上梓された。私の知る限り、日下先生がコミュニケーションについてのまとまった本を出版されるのは、2013年に上梓され

た『医療の場のコミュニケーション 言葉を贈る 心を贈る』に次いで、2冊目ではないかと思う。

ところで、私の奉職する大学では、座学中心に医学を学んできた4年生が共用試験 CBT と OSCE に合格し、スチューデントドクターの資格を得てベッドサイドに出る直前に、彼らの自覚を促し、新たな気持ちで臨床実習に臨んでもらうためのセレモニーとして白衣式 (white coat ceremony) を実施している。

白衣式では、学長が式辞を述べることになっているが、毎年、式辞の原稿作りには苦勞する。一昨年、学生に贈る言葉を探す目的で立ち寄った書店で偶然日下先生の著書が目にとまり、何気なく購入し、拝読した。そして、大きな衝撃を受けた。大げさな言い方と思われるかもしれないが、私はこの本を読んで、今まで自分が行ってきた診療は一体何だったかと大いに反省させられ、やり直せるならもう一度、一から出直さなければいけないと強く思った。私は血液内科医だが、コミュニケーション力はそこそこあり、患者さんと信頼関係を築くことには自信すら感じていたが、それはとんでもない独

りよがりの思い込みであることを痛切に反省させられた。

このような読後感を同僚の教員に話し、日下先生の著書を数冊購入し、配布や回覧をして読んでもらった。看護部では接遇の委員会で取り上げられ、勉強会の資料として使用され、担当の看護師長からは感謝された。また、平成26年度の白衣式には日下先生に來学いただき、ベッドサイドに出る学生への特別講演として、直接、学生に語りかけていただくことができた。

本書は、コミュニケーションとは医療者の心を贈ることである、という表題にもなったメッセージで貫かれているが、ポイントとなる52の項目がそれぞれ見開き1~2ページに要領よくまとめられており、一気に読むことができる。しかし、そのような形式よりも、その中身がいちいち心に沁み入る内容であり、新たな気持ちで患者さんと接する気持ちを沸き立たせてくれる。

本書は、医療職を志す者には学生時代に必ず読んで、私のような後悔をしないようにしてほしい。また、医療の第一線で働いている方々にもぜひご講演いただき、コミュニケーション力に一層の磨きをかけていただきたい。